

戦中・戦後をともにした動物たち

開催趣旨

このたび昭和館では「戦中・戦後をともにした動物たち」と題し、特別企画展を開催する運びとなりました。

先の大戦中、戦争の長期化に伴って身近な動物が軍用品をはじめ毛皮用や食用など資源として扱われ、農耕馬が軍馬に徴発されたり、飼い犬の献納運動が推進されました。さらに動物園では、空襲で逃亡した動物による被害を防ぐため猛獣処分も実施され、動物にとっても戦争は暗い影を投げかけました。一方、戦後の復興期には動物が明るい話題を提供し、人々の心を慰めてくれました。本展では、戦中・戦後を通して人間と動物とのかかわりを、実物資料・写真・手記などで紹介します。

記

【主 催】	昭和館
【後 援】	財団法人 日本動物愛護協会、社団法人 日本動物福祉協会 社団法人 日本愛玩動物協会、社団法人 日本動物保護管理協会
【協 力】	財団法人 東京動物園協会(恩賜上野動物園、井の頭自然文化園)
【会 期】	平成20年7月26日(土)～8月31日(日)
【会 場】	昭和館3階 特別企画展会場
【入 場 料】	特別企画展は無料(常設展示室は有料)
【開館時間】	10:00～17:30(入館は17:00まで)
【休 館 日】	毎週月曜日
【内 覧 会】	平成20年7月25日(金) 15:00～17:00
【所 在 地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
【問い合わせ】	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
【交通(電車)】	地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
	J R 【飯田橋駅】から徒歩約10分
【交通(車)】	首都高速西神田ランプから約1分
【ホーム・ページ】	http://www.showakan.go.jp
【その他】	有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間200円)

展示構成

I 身近になった動物

古代より人々は動物とともに暮らしてきたが、農耕や運搬に牛馬を使ったり、狩猟にイヌを使ったり、人間は動物を利用することが多かった。近代になって、愛玩動物(ペット)という意味合いが強くなり、教科書や絵本などに動物とのふれあいが描かれることが多くなった。そして、外国の珍しい動物が動物園やサーカスを通して日本にやってくるようになると、たちまち子どもたちの人気者となった。

また、毛皮用や食用などとして様々な動物が外国から日本に運び込まれ(外来種)、新しい動物が各地に定着するようになった。

1. 忠犬ハチ公
2. 教科書やマンガなどでとりあげられた動物
 - ①教科書でとりあげられた動物
 - ②マンガや絵本に描かれた動物
3. めずらしい動物
 - ① 動物園のはじまり
 - ② サーカスのはじまり
 - ③ 外来種の流入



空襲で足の溶けたハチ公のブロンズ像
初代ハチ公像を造った安藤照制作のもので、同一のものが皇室に献上された。

安藤土蔵



木版画
小泉癸巳男「昭和大東京百図絵版画」
第四十八景 春の動物園

昭和9年(1934)3月作製

Ⅱ 戦時下の動物たち

明治初年からウマは軍馬として重宝され、兵士とともに戦地へと出征していき、その訓練として競馬や馬術が盛んで、日露戦争からは軍犬や軍鳩も盛んに利用された。

また、日中戦争以降、毛皮用や食用としてウサギなどが供出され、別れを惜しむ姿が見られた。動物園やサーカスでは食糧不足と空襲時の不安から猛獣が処分され、動物にとっても戦争の影響は大きかった。

1. 軍用馬・軍用犬・軍用鳩

- ① 軍用馬
- ② 軍用犬
- ③ 軍用鳩

2. 猛獣処分

3. さまざまな供出

- ① ウサギの飼育奨励と献納運動
- ② 狂犬病予防としての犬の供出（公衆衛生・食糧不足・毛皮用）
- ③ ハチ公像の回収



徴発されたウマを名古屋まで送る

熊谷元一撮影
昭和12年(1937)



ポスター「少国民みんなで飼はう軍用兔」